

鳥羽の海を わたしたちで守っていこう

鳥羽清港会事務局・環境課 ☎(25)1147



このたび、鳥羽清港会と鳥羽市の共同企画第1弾として、22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会委員長の小浦嘉門さんに鳥羽の海ごみの現状を伺いました。

22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会
“奈佐の浜に、伊勢湾に豊かな海を取り戻そう”
委員長 **小浦 嘉門**さん(桃取町)

22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会は、伊勢湾流域の環境団体で構成され、伊勢湾流域のごみを減らし、「100年後に奈佐の浜の海ごみ^{ゼロ}」を目指し活動している。



鳥羽市に漂着する
海ごみは年間5千トン

伊勢湾の海ごみ、年間約1万2000トンのうち、鳥羽市には約5000トンの海ごみが漂着することをご存じですか(三重県調査試算)。ちなみに5000トンは、水の入った2ℓのペットボトル約250万本分の量に相当します。

奈佐の浜に漂着する
海ごみは年間3千トン

鳥羽市に漂着する海ごみ約5000トンのうち、答志島桃取港から徒歩30分に位置する奈佐の浜には、約3000トンの海ごみが漂着すると想定されていて、伊勢湾の海ごみの4分の1に相当します。

海ごみはどこから
やって来るのか？

海ごみは、主に伊勢湾流域(愛知・岐阜・三重)の河川から流れてきます。
ごみの種類は8割が流木や木枝などで、残り2割がプラスチックなどの人工物です。



令和3年9月 奈佐の浜

美しかった奈佐の浜
今から約25年前には、奈佐の浜でサマースクールを開催していました。海岸にテントを張り、地引き網やボートの漕ぎあい競争をしてみんなで遊びましたが、平成7年ごろから海ごみが増え始め、現在はかつての光景はありません。

「鳥羽の人でも、奈佐の浜の現状を知らない人は多い」
そう語るのは、22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会の小浦嘉門さん。小浦さんは地元答志島桃取町で長年漁業に従事し、現在は、奈佐の浜の海ごみ被害の現状を伝えるため、全国から訪れる清掃ボランティアの受け入れや、講演活動をされています。



流木などが押し寄せた桃取港(※1)

海ごみの現状をみんなに知ってほしい
普段から海ごみは多いですが、特に台風の後などは大量に流れてきます。(※1)
答志島は、黒海苔養殖が盛んですが、海ごみが海苔に付着すると売り物にならないことや、大量の流木で沖合に設置された海苔網に大きな被害をもたらすことがあります。
また、流木を回収するのはもちろん、被害が広がらないように漂流している流木などをオイルフェンスで囲う対策もしています。(※2)
こうした現状を小浦さんは、「生産者は必死。億単位の被害が出ることもある」と訴えます。



オイルフェンスで海ごみの流出を防いでいる様子(※2)

子どもたちに伝える
ごみを出さない
それが私たちの使命

奈佐の浜には、全国から多くのボランティアが清掃に来てくれています。みなさん「ごみが多くてびっくりした」と言われます。拾っても拾っても流れ着くごみの現状を子どもたちに伝え、つなげていかなければならない。それが私たちの使命です。

海ごみ普及啓発
動画を公開中!



第2弾は鳥羽水産研究所
岩尾豊紀さんにお話を伺います

鳥羽清港会の紹介

鳥羽清港会は、鳥羽市内の港湾、漁港および河川などの清掃・美化を図り、海水の汚濁防止等環境衛生の向上に資することを目的として、昭和52年に設立された団体で、今年45年目を迎えます。

市内の63団体が入会し、いつまでも美しい鳥羽の海を守るための活動として、港湾などの清掃・美化を図り、環境保全に関する啓発・普及活動を行っています。

主な活動は、昭和53年から令和元年度まで毎年「海の大掃除」を42年間継続してきましたが、令和2～3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、海の大掃除を中止とする事態となりました。

海事関係功労者(海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動) 表彰を受賞しました

鳥羽清港会が、多年にわたり鳥羽港の清掃・美化を図り、港湾などの環境保全に関する啓発・普及に努めた功績が認められ、国土交通省中部地方整備局長から海事関係功労者(海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動) 表彰を受賞しました。



市長報告の様子



新規会員募集中!

鳥羽清港会では、一緒に鳥羽の海を守っていく企業、団体を募集しています。申込方法など詳しくは、鳥羽清港会ホームページをご覧ください。



鳥羽清港会ホームページ